



# みやぎの明治村 とよま資料館だより

登米市歴史資料館・高倉勝子美術館  
発行/㈱とよま振興公社  
〒987-0702  
宮城県登米市登米町寺池桜小路2  
Tel: 0220-52-5566  
Fax: 0220-52-2630



発行日 令和3年9月1日

## ◀ 高倉勝子美術館「桜小路」 ▶ 第5号



登米町出身の画家・高倉勝子が自身の作品を後世に残すとともに故郷の文化活動の一翼を担いたいとの思いで93点の絵画作品とこれを収蔵・展示する建物とを登米市に寄贈することによって平成21年10月に開館した美術館です。

勝子作品を展示した常設展示室、通路ギャラリーに加え多目的室が設置されワークショップであったり創作品の展示であったり市民のみなさんの芸術的活動の場として提供しています。

女子美術大学で日本画を学んだ勝子は、美術科・国語科の教諭として宮城県の中学校に奉職しました。子供たちと触れ合い指導する仕事は楽しくやりがいのあることでしたが、同時に「思いのままに絵を描きたい」という気持ちが強く込み上げてきたそうです。

その意を汲んだ知人に勧められたのが「河北美術展」への出展でした。昭和33年(1958年)三回目の出展(「黄衣」—当館常設展示)で、文部大臣賞の受賞を嚆矢として、画家としての歩みを始めた勝子は、精力的に制作し続け、平成7年それまでの画業の集大成として画集「悠—祈り・いのち・風・流・大地」を発行しました。

作品には、それぞれ画家本人の制作当時の思いを記した言葉が添えられており、大変興味深いものがあります。特に、制作の背景と何とか思い描く表現にたどり着こうと模索する心情とを象徴的に物語っているように思われる文を次にご紹介致します。

「朝まだうすぐらい時刻、仙台発下り1番の仙石線に乗って出かけるために、4時前には起床する。家事を終えて、主人や子供たちの弁当を作り、そして写生帖を持って、学校へ出勤するまでの2時間、塩釜魚市場での朝の活力に満ち満ちている一刻一刻の動的な人々の姿を描く。とても美しい。特に子を背負った若い母親たちの真剣な生きかたを見ているとこちらの心まで鞭うたれているようだ。実に躍動的でみなキラキラ輝いている。」

この文が添えられた作品「漁婦」は、昭和39年(1962年)河北美術展で東北放送賞を受賞した後、県に寄贈され同年仙台市に開館した宮城県スポーツセンター(老朽化により平成18年(2006年)に解体)の階段踊り場を飾っていたものです。令和元年10月の開館10周年記念特別企画展にて展示したのを機に高倉家諒承のもと、当館に移管となり、現時点で常設展示しているものです。

昭和39年という年は、日本は高度経済成長の真っ只中にありました。そして勝子個人も不惑の齢を越え、人間的にも技術的にも、まさに脂の乗り切った時代であり、画面からはそんな熱量が伝わってくるかのようです。



### 河北美術展とは—

仙台市に本社を置く地方新聞社「河北新報社」主催の日本画、洋画と彫刻の公募展。1933年(昭和8年)に開始し、2019年(平成31年/令和元年)に82回を数えた名実ともに東北最大規模の公募展(コロナ禍により2020年、2021年と中止)。高倉勝子はこの美術展において1978年(昭和53年)に招待作家、1983年(昭和58年)に顧問、2008年(平成20年)には参与となっている。



【学芸員の視点・解説】

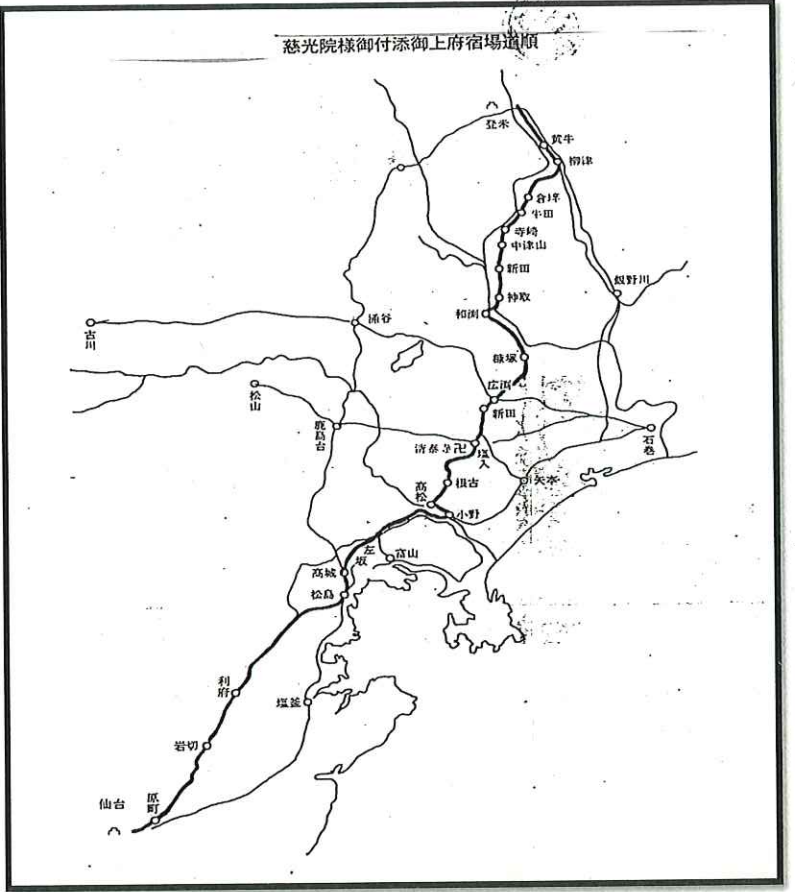
『慈光院上府道中記』のあらましについて

今回、登米伊達家で所蔵していた史料の「慈光院様御付添御上府次第」を取り上げ、皆さんにお伝えしたいと思います。この史料、①時代はいつか。②慈光院様とは。③御上府次第とは。くわしく見ていきます。

①時代は、天保13年(1842)10月頃の出来事を記したと考えられます。②慈光院様は、登米伊達家12代邦寧の実母です。③御上府次第は、慈光院様が殿様に付添われ登米から仙台にお上がりになる次第を記したものです。(上記①②③については「登米町史編纂資料集」第三集を参照)

次第には、御発駕前日から、御一門を始めとして家中の役目や動きがこと細かに記載されています。そして、仙台北下までの道順では、通過する宿駅や伊達家家臣の領地を明記し、宿駅間の距離、休み所、また宿泊される御殿(桃生郡深谷塩入村にあった塩入御殿)での家中や村役人の動きが記されています。図①(「登米町史編纂資料集」第三集より)

それでは、仙台北下までのような道順を辿ったのでしょうか。図②(「登米町誌」第一巻近世編より)をご覧ください。登米を出発して主な宿駅の本吉郡柳津⇒桃生郡寺崎⇒神取⇒桃生郡深谷和湊⇒広湊⇒塩入御殿(一泊)⇒小野⇒高城⇒利府⇒原町⇒仙台北下という道筋になります。この塩入御殿を経由した街道は、登米伊達家初代宗直のころからの登米～仙台を結ぶ主要街道であったと考えられ、江戸期に整備された「気仙街道」とほぼ重なります。尚、この街道は、登米伊達家から仙台北下になった齊邦が、実母智鏡院の墓参の為登米に下向する道筋として、初めて「登米藩史稿」(昭和3年編纂登米伊達家の歴史書)に明記されました。



(図 ②)

|      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| ハ    | リ    | タ    | オ    | (シ)  | ヒ    | フ    | カ    | テ    | ヤ    | ト    |
| 原町   | 利府   | 宮城   | 小野   | 塩入   | 新川   | 柳津   | 寺崎   | 神取   | 和湊   | 登米   |
| 18里  | 20里  | 18里  | 10里  | 5里   | 15里  | 3里   | 7里   | 10里  | 10里  |      |
| 小休   | 小休   | 小休   | 小休   | 小休   | 小休   | 小休   | 小休   | 小休   | 小休   | 小休   |
| 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 | 仙台北下 |

「歴史紀行」第三集(一九七)からの冒頭の項目から抜粋する登米より仙台までの宿場道順(除くトナカワ)

### 次号の告知

次号は「高倉勝子美術館編」で、今年7月に発行予定です。  
高倉勝子氏は登米町出身の日本画家ですが、学校で美術の先生として勤務していました。勝子氏は広島で被爆体験をしています。体験をもとにして制作した作品もあります。この機会に、どうぞご覧下さい。

＜連続テレビ小説情報＞ R3.5.17(月)～  
NHK連続テレビ小説「おかえりモネ」放映が開始されます。

### 編集後記

今回の資料館だよりは「高倉勝子美術館「桜小路」」篇をお送りしました。日頃この施設に関わる者のひとりとしてもっとより多くの美を愛でる方々に勝子作品の存在をお伝えしたいと思っております。観光で当地において頂き初めて知ったというお客様から頂く「佳いものを見せてもらった」というような嬉しい言葉が本当に励みになります。これからも地